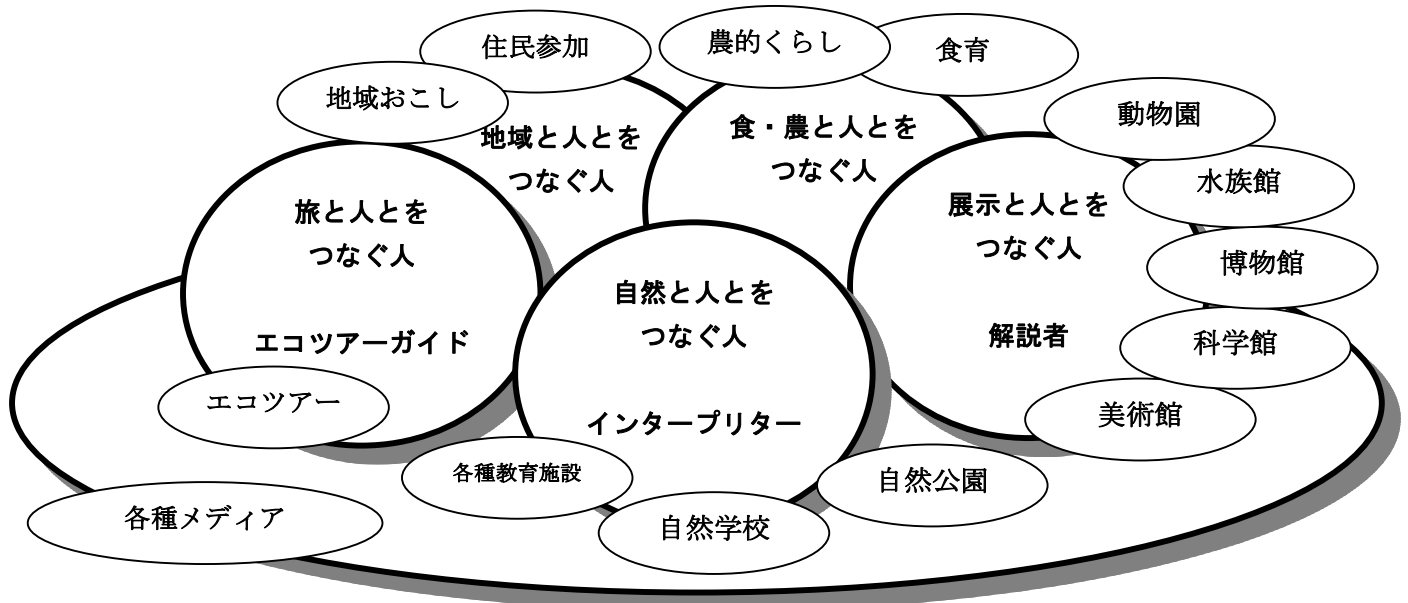


第2回「つなぐ人フォーラム～自然・文化・地域・人をつなぐ～」開催概要

「インタープリテーション」はメッセージと人をつなぐ技術です。「インタープリテーション」は野外での自然解説の分野で使われるだけではなく、動物園・博物館・科学館・美術館等の展示解説やエコツアーガイド等の場で盛んに行われるようになってきました。領域を超えて「インタープリテーション」(伝える技術)の役割を確認し、様々な現場の経験や技術を分かち合うことによって、「つなぐ技術」や「学びの場づくりの知恵」を高めあうことをねらいとして、「つなぐ人フォーラム」を企画しました。今年、国際交流基金の助成を受け、韓国、中国、台湾、インドネシア、マレーシアなどアジア各国からの「つなぐ人」にも参加いただくこととなりました。



■名称: 第2回「つなぐ人フォーラム～自然・文化・地域・人をつなぐ～」

■期日: 2009年9月6日(日)14時～9月8日(火)14時

■場所: 財団法人キープ協会清泉寮(山梨県北杜市高根町清里 3545)

■参加対象者: 「自然の中でのインタープリテーション」、「環境関連施設での室内解説活動」

「動物園・博物館・美術館・科学館などの室内・野外解説活動」、「エコツアーでのガイド」

「各種メディアを使った伝える活動」「地域活性化の活動」「食べものや作り手と消費者をつなぐ活動」などに関わる人＝つなぐ人(150人)

■ねらい: 領域を超えて、つなぐ仕事をしている人々が集うフォーラムを開催する。自然(公園)の中で、動物園・博物館・科学館・美術館などの展示の前で、エコツアーなどの機会に、そして様々なメディアを通して行われている、「インタープリテーション」(伝える技術)の役割を確認し、様々な現場の経験や技術を分かち合うことによって、「つなぐ技術」や「学びの場づくりの知恵」を高めあうことを目的とする。

■主催: 第2回「つなぐ人フォーラム」実行委員会(別紙名簿参照) / 財団法人キープ協会

■共催: 日本インタープリテーション協会 / 立教大学ESD研究センター

■協賛: 現在募集中

■助成: 国際交流基金

■後援: 社団法人日本環境教育フォーラム、NPO法人自然体験活動推進協議会、NPO法人日本エコツアーリズムセンター
日本展示学会、株式会社オルタナ(以上後援申請了解済み)、日本ミュージアム・マネジメント学会、
日本エコミュージアム研究会(申請中)

■開催事務局: 財団法人キープ協会(407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545) 0551-48-3795 担当: 山本

■参加費: 30,000円(2泊6食入湯税など含む)

■申し込み: 財団法人キープ協会環境教育事業部のホームページから <http://www.keep.or.jp/FORESTERS/>

■関連行事: つなぐ人シンポジウム 2009年9月5日(土)15時～18時@立教大学池袋キャンパス

プログラム案

1 日目 開始時刻 所要時間 プログラム案

9 月 6 日 (日)

13:00	0:20	開会式・オリエンテーション
13:20	0:40	全体会①
14:00	0:15	休憩
14:15	1:00	全体会② アジアからのゲストプレゼン 3 人
15:15	0:15	休憩
15:30	0:40	全体会③ アジアからのゲストプレゼン 2 人
16:10	0:30	15 分プレゼン打ち合わせ:休憩
16:40	1:00	全体会④
17:40	1:50	夕食&休憩
19:30	1:30	15 分間プレゼンテーション その①(2部屋?:昨年=1部屋)
21:00	2:30	交流会 その①
23:30		終了

2 日目 開始時刻 所要時間 プログラム案

9 月 7 日 (月)

7:00	1:00	ヤマネミュージアム:西の魔女が死んだおばあちゃんの家:特別開館
8:00	1:15	朝食
9:15	1:00	全体会⑤
10:15	0:15	休憩
10:30	3:30	ワークショップ①(含む昼食)
14:00	0:30	休憩・移動
14:30	3:00	ワークショップ②
17:30	0:30	休憩・移動
18:00	0:30	全体会⑥
18:30	1:30	夕食&休憩
20:00	1:30	15 分間プレゼンテーション その②(2部屋?:昨年=1部屋)
21:30	2:30	交流会 その②
0:00		終了

3 日目 開始時刻 所要時間 プログラム案

9 月 8 日 (火)

7:00	1:30	朝食
8:30	3:00	今後に向けた戦略会議
11:30	0:15	休憩&移動
11:45	1:00	全体会⑦
12:45	0:15	休憩&移動
13:00	1:00	昼食
14:00		終了 解散つなぐ人フォーラム関連事業

第1回つなぐ人フォーラム(2008年)で実施された「ワークショップ」一覧

ファシリテーターはいずれも実行委員(五味を除く)

- メディアを活用してインタープリテーションの可能性を拓けよう
ファシリテーター:中西紹一(プラス・サーキュレーション・ジャパン)
- インタープリテーションに使える演劇的手法
ファシリテーター:嵯峨創平(IDEA 環境文化のための対話研究所)
海野義明(オーシャンファミリー海洋自然体験センター)
- ハンズオンで効果的に伝えよう
ファシリテーター:染川香澄(ハンズ・オン プランニング)+五味愛美(財団法人キープ協会)
- ミュージアムのコミュニケーション
／失われつつある記憶をメディアでつなぐコミュニケーションを企画しよう!
ファシリテーター:重盛恭一(まち研究所)+高橋真理子(山梨県立科学館)
- 科学館のコミュニケーション／「だれもが語り合う」星空の下でのコミュニケーションを体験しよう!
ファシリテーター:重盛恭一(まち研究所)+高橋真理子(山梨県立科学館)
- 観光をエコ化する方法を考えよう
ファシリテーター:広瀬敏通(NPO法人日本エコツーリズムセンター)+佐藤初雄(国際自然大学校)
- 効果的なインタープリテーションとは?
ファシリテーター:小林毅(森林文化アカデミー)
- 生物多様性をどのようにインタープリテーションするかいっしょに考えよう
ファシリテーター:古瀬浩史(自然教育センター)

第1回つなぐ人フォーラムで実施された 15 分間プレゼンテーション一覧

- 星空から街づくりへ～ライトダウン甲府バレーの取り組み～ 跡部浩一(小学校教諭)
- 科学と市民をつなぐコミュニケーションデザイン
渡辺保史(北海道大学科学技術コミュニケーション養成ユニット特任准教授)
- 古道復元がつなぐもの 山田俊行(トヨタ白川郷自然学校)
- 「つなぐ活動」を伝える／つなげる 松井雄一郎
- 星を眺める他に、いかに実体験を伴った星空 IP(インタープリテーション)にするのかの事例を紹介
鈴木崇則(感じる星空インタープリテーション)
- 「エコミュージアム ～博物館・農山村・旅をつなぐ試みとして～」
嵯峨創平(IDEA 環境文化のための対話研究所)
- 科学技術館 鴻巣美千代、青海みずほ、寺田雅美(科学技術館)
- 美術館ガイド 西邨智子、胃甲貴子、安田美世(東京国立近代美術館「工芸館」)
- 自然と人をつなぐ(エコツアーガイドとして) 佐藤休三(丹沢自然学校)
- 星でつなぐ・星とつながる 高橋 真理子(山梨県立科学館)
- イメージをカタチにする～福岡大学での事例～ 中西紹一(プラス・サーキュレーション・ジャパン)

「つなぐ人シンポジウム

～アジア・インタープリテーション・ネットワーク～に向けて」

■名称:「つなぐ人シンポジウム～アジア・インタープリテーション・ネットワークに向けて～」

■期日:2009年9月5日(土)15時～18時

■場所:立教大学池袋キャンパス:太刀川記念館3階ホール

■スピーカー

- ・中国:曾紅鷹 (Mr. ZENG Hongying) (日中友好環境保全センター宣伝教育室)
- ・韓国:鄭秉峻 (Mr. Byung-Joon JUNG) (韓国環境教育ネットワーク事務局長)
- ・台湾:周儒 (Mr. CHOU Ju) (台湾師範大学環境教育研究所、大学院環境教育研究科教授)
- ・インドネシア:Mr. Feri PRIHANTRO (ビンタリ財団プログラムマネージャー)
- ・マレーシア : Ms. Bernadette D. JOEMAN (サバ州森林局環境教育ユニット長、
Rainforest Discovery Centre (ネイチャーセンター) センター長)
- ・日本 : 小林毅 (日本インタープリテーション協会代表)

■コーディネーター:阿部治(立教大学ESD研究センター長、日本環境教育学会会長)

■プログラム:

15時	開会あいさつ・趣旨説明	立教大学ESD研究センター(センター長:阿部治)
15時10分	各国のインタープリテーション事情の紹介①	中国・韓国・台湾(各15分+予備5分)
16時10分	休憩	
16時20分	各国のインタープリテーション事情の紹介②	インドネシア・マレーシア・日本(各15分+予備5分)
17時20分	パネルディスカッション	
18時00分	終了	

■主催:立教大学ESD研究センター

第2回「つなぐ人フォーラム」実行委員会

財団法人キープ協会

■共催:日本インタープリテーション協会

■助成:国際交流基金

■開催事務局:立教大学ESD研究センター

171-8501 豊島区西池袋3-34-1/TEL&FAX:03-3985-2686 E-mail:esdrc@grp.rikkyo.ne.jp

■参加費:無料

■申し込み:立教大学ESD研究センターのホームページから

(<http://www.rikkyo.ne.jp/grp/esdrc/index2.html>)

※第2回 つなぐ人フォーラム実行委員名簿

●実行委員長

小林毅(日本インタープリテーション協会/岐阜県立森林文化アカデミー)

1983年からインタープリター/スーパーバイザーとして活動。1989年に自然教育研究センターならびに日本インタープリテーション協会(現代表)を設立。2006年度から岐阜県立森林文化アカデミー教授(環境教育・インタープリテーション研究会)

●実行委員(アイウエオ順)

阿部治(立教大学社会学部、「持続可能な開発のための教育の10年推進会議」(ESD-J))

筑波大、埼玉大を経て2002年より立教大学教授。専門は環境教育/ESD。現在、立教大学ESD研究センター長、日本環境教育学会会長、日本環境教育フォーラム理事、ESD-J代表理事、日本自然保護協会理事、IUCN-CEC委員など。環境教育のパイオニアとして国内外で活動。

海野義明(オーシャンファミリー海洋自然体験センター/海に学ぶ体験活動協議会)

三浦半島葉山、三宅島を中心に、海で子ども相手に環境教育、海洋教育、地域教育の実践ならびにそのための指導者育成などを行っている。自然や海洋に関わる団体の理事や大学のゼミ実習講師、委員などもしている。

川廷昌弘(博報堂DYメディアパートナーズ環境コミュニケーション部長/日本写真家協会会員)

2005年から環境省チーム・マイナス6%に関わりメディアコンテンツ統括責任者、多くの環境コミュニケーション・デザインを手がける。写真家として「地域の大切な資産、守りたい風景、記憶の風景を撮る」をテーマに活動、写真集、個展、グループ展、ワークショップなど展開。

嵯峨創平(IDEC環境文化のための対話研究所/ミュージアム・シアター・ワークショップ)

地域と博物館をつなぐ活動をミッションとするNPOを主宰。現在は、福島県奥会津のエコミュージアム実践研究と、即興演劇を使った博物館教育の開発プロジェクトを展開中。日本エコミュージアム研究会(jeocms)事務局長、日本ミュージアム・マネジメント学会(JMMA)理事。

佐藤初雄(NPO法人国際自然大学校)

1983年に国際自然大学校設立。東京校、山梨県日野春校、群馬県にいはる自然学校で活動を展開。(株)ノッツ代表取締役、(社)日本環境教育フォーラム理事、日本野外教育学会理事、自然体験活動推進協議会代表理事等の役職を務めながら、各地の自然学校設立のため、全国を奔走している。

重盛恭一(まち研究所/ミュージアム エデュケーション センター)

1987年以降博物館専門会社のプロデューサー。1996年から市民参加のワークショップを推進。記憶と経験をベースに博物館体験への関心から博物館の教育プログラムまで幅広く開発実践。2005年に独立し、現職(研究所代表)。

染川香澄(ハンズ・オン プランニング/ミュージアム・アドバイザー)

考古・歴史系から水族館までのあらゆる分野の博物館で、利用者の立場に立った博物館づくりのお手伝いをしています。博物館が

もっと楽しく自由に遊び学べる場として、一般の人々を魅了し続けるために、現場のみなさんと一緒に議論し考えていくのが仕事のスタイル。各地の博物館の運営委員などを歴任。

高橋真理子(山梨県立科学館)

主にプラネタリウムが仕事の場。宇宙連詩山梨版「星つむぎの歌」、市民コミュニティ「星の語り部」、ライトダウン甲府パレー、プラネ番組制作など、「人が星を見上げる意味」を追求しつつ、「つなぐ」「つたえる」「つくる」仕事をしている。

中西紹一(プラス・サーキュレーション・ジャパン/立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科)

1999年コミュニケーション戦略開発を主たる業務とするプラス・サーキュレーション・ジャパンを設立。「ワークショップ - 偶然をデザインする技術」著者。立教大学異文化コミュニケーション研究科非常勤講師/ESD研究センター研究員。日本文化人類学会会員。

西村佳哲(リビングワールド/全国教育系ワークショップフォーラム)

デザイン会社・リビングワールドで、情報デザインやプロダクト開発を行っている。「自分の仕事をつくる」著者。2002~2004年まで赤城青年の家で開催された「全国教育系ワークショップフォーラム」の実行委員長。

林浩二(千葉県立中央博物館)

日本自然保護協会を経て1989年から博物館。環境教育と開発教育を「つなぐ」試みを十数年、気がつけばESDが目される存在に。博物館内外で市民参加をキーワードに行事やワークショップを企画・実施。

菱川貞義(275研究所/ジヤスニュース編集局)

1990年ごろより環境コミュニケーション研究をスタート。びわこ市民研究所暫定編集長。NPO法人合意形成プロセスマネジメント協会会員。講談社こども美術学園講師。浜大津朝市運営委員。ネット合意形成支援ツール「WAKARU」発明。第4回OAAA広告研究論文金賞受賞。滋賀県立大学特別講師。

広瀬敏通(ホールアース自然学校/NPO法人日本エコツアーリズムセンター)

1982年にホールアース自然学校を設立。日本の自然学校運動の草分けの一人。エコツアーリズム研究と実践の第一人者。06年環境省「日本エコツアーリズム大賞」受賞。日本環境教育フォーラム理事。日本エコツアーリズムセンター代表理事。

古瀬浩史(自然教育研究センター)

自然公園、海洋環境、森林等に関する教育普及の、プログラムの開発、人材育成、計画策定などが中心的な活動。海辺の環境教育フォーラム幹事代表、日本安全潜水教育協会副会長、CNAC理事、東邦大学非常勤講師。

●事務局長

川嶋直(キープ協会/立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科)

キープ協会で1984年から環境教育事業を担当。日本環境教育フォーラム専務理事。自然体験活動推進協議会理事。愛・地球博 森の自然学校・里の自然学校 統括プロデューサー。立教大学ESD研究センター運営委員。